

編集後記

大勢のみなさまのご参加とご協力により、「第39回天文学に関する技術シンポジウム」を盛会のうちに終えることができましたことを、まずはご報告いたします。

参加者総数は92名（台内71名、台外21名）で歴代最多となりました。特記すべきこととして、三日間開催の中日を世話人企画日と定め、テーマを「国際化」と称し、複数の招待講演および参加者全員によるグループ討論を行いました。世話人企画日の講演数14件（企画講演10件、ライトニングトーク4件）、初日および三日目の講演数30件（口頭14件、口頭およびポスター11件、ポスター5件）、合わせて44件もの講演が、今回、行われたこととなります。このような大きな規模で開催ができたのも、ひとえにご参加くださった皆様の、シンポジウムに対する期待の大きさの表れでもあったのだらうと思っております。まずは、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

招待講演では、TMT国際プロジェクト、東アジア天文台ほか、台内各プロジェクトの長級の方々に講演を快くお引受けいただき、それぞれの現状や技術的な課題など、国際プロジェクトが抱える様々な事柄についてお話していただきました。さらに、現場の生の声をお届けするため、技術系職員中心のライトニングトークも実施し、国際プロジェクトならではの苦労について語っていただきました。今や大規模プロジェクトは国際協力がないと成り立ちえない状況になっていますが、内部の人間でないとプロジェクトの状況がよくわからないこともあり、そのためこのような企画を立ち上げましたが、幸いなことに大勢の方々の興味や関心をひくことができました。また英語主体にもかかわらず、みなさん熱心に耳を傾け、積極的に質問もされていたので、世話人会としても安堵いたしました。なおその後のグループ討論は、短い時間であったにもかかわらず、各グループからは思いのほか充実した内容の発表がなされ、驚かされました。懇親会でもその討論の熱気が引き継がれたようで、会場のあちこちで議論の輪ができ、大変にぎやかな会となりました。

今回は、国立天文台の技術を束ねる技術主幹が、宇宙航空研究開発機構出身の満田和久氏に交代して間もない開催でした。本台にそれほど慣れていない中、中日だけではありませんでしたが、氏には技術主幹としてご参加いただきました。またそのため、初日の開会のあいさつは、技術推進室の鈴木光一氏にお願いしました。技術主幹および技術推進室には、シンポジウムの成功を影で支えていただきました。どうもありがとうございました。

最後に、講演者の皆様へは言うも及ばず、座長やグループ討論のファシリテータの皆様には多大なご協力をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和2年2月20日 世話人会代表 中村京子

第39回天文学に関する技術シンポジウム

世話人	アルマプロジェクト	中村 京子
	野辺山観測所	倉上 富夫
	天文情報センター	長山 省吾
	ハワイ観測所	佐藤 立博
	先端技術センター	江崎 翔平
	先端技術センター	坂井 了

オブザーバ 先端技術センター（技術推進室） 藤井 泰範